

鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和2年度報告)

白山野々市鳥獣害防止対策協議会

1 被害防止計画の作成数、特徴等

協議会を構成している白山市及び野々市市において、農作物被害のほとんどは白山市管内で発生しており、被害を及ぼす主な野生鳥獣は、イノシシ、サル、クマ、中獣類(ハクビシン、タヌキ)、鳥類(カラス、ドバト)である。その中で、イノシシやサルによる被害が総額のほとんどを占めているの現状である。このことから、被害防止計画の基本方針として「侵入防止」「環境整備」「捕獲」の3本柱を実行し、効果的かつ効率的に被害の減少を図ることとしている。

2 事業効果の発現状況

被害が甚大なイノシシやサルの対策を重点的に実施した。内容は、集落ごとに効果的・効率的な対策を行なうための講習会や研修会を実施し、また侵入防止柵設置の補助や捕獲檻の貸出しを行った。毎年サル群の動向調査を基に地域住民やモンキードックによる追い払いを行っているほか、夏野菜の収穫期に捕獲隊による巡回捕獲を実施し、令和2年度からは大型囲いわなを9~11月に設置することで一度に大量の個体を捕獲する対策を行った。

3 被害防止計画の目標達成状況

被害防止計画の策定にあたり、イノシシやサルによる被害が甚大であったH29年度被害金額及び面積の約75%削減を目標に設定していたが、H30からイノシシやサルの生息数の増加や生息区域の拡大、農業者の高齢化等により、侵入防止柵の未整備によるもののほか、管理不足等から農作物被害が増加し目標を達成できなかった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見
										被害金額(千円)			被害面積(ha)				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
白山野々市鳥獣害防止対策協議会	白山市野々市市	R2	クマ、サル、イノシシ、ニホンジカ、中獣類(アナグマ、ハクビシン、タヌキ、アライグマ)、鳥類(カラス、カモ、サギ類、ムクドリ、ハト)	環境整備 研修会の実施 サル群の動向調査 モンキードックによる追い払い 大型囲いわな及び箱わなの購入 ジビエ利用の促進 電気柵等による被害防止対策の促進	大型囲いわな購入(1基) サル取込ネット(1個) 電気止め刺し購入(2本) 捕獲用玉網中・大(各1本) サル檻(5基) イノシシ檻(2基)	白山野々市鳥獣害防止対策協議会			イノシシ、サルによる水稲の被害が多発していたことから、猟友会が有害捕獲を行うとともに、集落の山際や田畑に侵入防止柵を設置。進入路となる場所に箱わなを設置。サル群の動向調査を基に地域住民やモンキードックによる追い払いを行いつつ銃器・箱わなで捕獲しているほか、次年度の農作物被害を減少させるため大型囲いわなを9~11月に設置しサルを捕獲。これらの取組によりH29年度と比較するとイノシシの有害捕獲約63.9%減少、サルの有害捕獲約17.5%増加した。	1,040	5,920	-59%	1.04	4.58	-17%	イノシシについては、農作物被害がH29年度と比べ増加しており、原因としては侵入防止柵の未整備箇所に被害が発生した。 サルについては、H29年度以降毎年100頭以上を捕獲しているが、生息数の増加及び生息区域の拡大しており、群の動向調査を基に地域住民やモンキードックによる追い払いや、猟友会による巡回捕獲、侵入防止柵設置の推進を実施しているもの農作物被害が増加傾向にある。	イノシシについては、今後も継続して侵入防止柵設置の推進や猟友会による捕獲活動に取り組む。 サルについては、生息数の増加や生息区域の拡大により農作物被害が増加傾向にあるため、今後も継続して群の動向調査を基に地域住民やモンキードックによる追い払いを行い、猟友会による箱わなや銃器による巡回捕獲を行う。また、令和2年度に購入した大型囲いわなを活用し捕獲活動の強化に取り組んでいただきたい。 【鳥獣保護員 西田利政】